

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4271401103
法人名	医療法人 弘池会
事業所名	医療法人弘池会 グループホームかづさの杜
訪問調査日	平成 20 年 10 月 8 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 25 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271401103
法人名	医療法人 弘池会
事業所名	医療法人弘池会 グループホームかづさの杜
所在地 (電話番号)	長崎県南島原市加津佐町戊4448 (電 話) 0957-87-5688

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年10月8日	評価確定日	平成20年11月25日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 5.1 人

(2)建物概要

建物形態	(併設)単独	(新築)改築
建物構造	耐火建築物	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	6,300 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	262 円	昼食 367 円
	夕食	420 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(平成 20年 8月 1現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 79 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	口之津病院、菅歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑に囲まれた静かな環境の中、法人内の医療機関と連携をとりながら、利用者が「家庭的な環境で、健康で明るく、安心して暮らすことができるよう、体制づくりに努めている。

近隣には民家が少ないが、近くの小、中学校の生徒や保育園の園児たちとの交流を図り、町内会への加入なども行い、地域の人々に認知症について理解してもらおうとともに、地域と事業所が互いに支え合う関係づくりに努めている。運営推進会議にも必ず地区の代表に参加してもらい、事業所運営について理解を得られている。

また、毎月利用者の過半数の家族と利用者の担当職員とが面談を行い、家族等の苦情や要望の聞き取りに努め、利用者一人ひとりがその人らしい暮らしを送ることができるような支援に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価における課題について職員間で話し合っており、記録の重複や記録方法などについて改善の途中である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、項目を分担して行うことで全職員が日々の取り組みを振り返り、ミーティングにて話し合い、共通理解を図り、最終的な評価としている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、行事や評価、日常の様子についての報告が中心となっている。今後は、テーマを決めるなどして話し合い、参加者からの意見や要望を聞き、サービスの質の改善に活かし、改善への取り組みについても会議で報告を行うなど、さらに事業所の運営に活かせる会議運営を期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月日程を調整して、担当職員が家族と面談をしたり、遠方等で来所できない家族には電話や手紙にて利用者の様子を報告し意見をもらうよう努め、事業所の運営に反映しようと努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の周辺に民家は少ないが、自治会に加入したり、小学校や保育園の行事に参加したり、中学生の福祉体験を受け入れるなどして、地域との連携に努めるとともに、認知症に対する理解の促進にも心がけている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人とは別に「家庭的な環境で自分らしい生活のリズムを保ち、共同で暮らすことによって精神的に安定した健康で明るい生活を支援します」という独自の理念をつくりあげ、職員全員で日々確認しながら支援を行っている。	○	これまでの理念に、地域の中でのその人らしい生活を支えることを視点に取り入れた理念づくりに取り組み、地域密着型サービスとしてサービスの質をさらに高めることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎月のミーティングで目標として理念について職員に話している。職員も申し送りノートに記載された理念を日々確認しながら共有し、その実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の近隣に民家は少ないが、自治会に加入したり、町の健康祭りに利用者の作品を展示したり、小学校の行事に参加したりして地域の人々と交流しながら、認知症に対する理解も得られるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に2回、項目を分担して職員全員で自己評価を行い、サービスの改善に取り組んでいる。外部評価の結果についてもミーティングで取り上げ、改善に向けて話し合いを行っているが、改善シートの作成までには至っていない。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ホームでの行事の内容や介護上の問題などについて話し合ったり、自己評価や外部評価の報告を行ったりしている。参加者からの意見は、職員にフィードバックし、サービスの向上に活かすよう努めている。	○	次年度は、自己評価や外部評価などのテーマを決めて会議を開催する等さらなる工夫に取り組み、参加者からの意見などがよりサービスの向上に活かしやすいような取り組みを期待したい。

長崎県 グループホームかづさの杜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には必ず市の職員に参加してもらっており、毎月届出などで市の窓口を訪れているが、市と協同したサービスの質の向上への取り組みは十分でない。	○	毎月の市の窓口の訪問の際などを活用し、さらなる交流を図り連携を深められるよう取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族面談を行っており、訪問できない家族には、電話連絡や手紙での連絡を行っている。その際に、日常生活、健康状態、金銭収支等の報告を行い、意見を聞いたり、同意を得たりしている。また、年に数回ホーム便りを配布するなど、個々に合わせた報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者一人ひとりの担当職員が、少なくとも月1回は家族と面談し要望などを聞き、運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族の要望もあり、職員の異動は極力行わないように配慮している。職員が替わる場合も法人内の他のグループホームの職員が配置されるので、日常的に交流を図り顔馴染みになって、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修を受ける機会の確保に努めており、法人内の委員会や研修にも参加するよう配慮している。日々の業務の中でリーダーが職員に助言しながら、職員を育てよう努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の福祉関係者で構成するケアネットにおいて、外部から講師を招いた勉強会などに、年3～4回参加しており、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は入居前に利用者宅を訪問し、1ヶ月以上の関わりを持ったうえでサービス利用を開始する等工夫し、本人や家族が安心し、納得してサービスを利用できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との関係において、支援する側される側という意識を持たず、できることや分かることは本人にしてもらいながら、必要とされる時に介護を提供するという意識で支援にあたっている。訪問調査時も、生け花、調理の下準備などを利用者と職員がともに行っており、互いに支え合う関係づくりに努めている姿勢が窺えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々利用者の意向の把握に努めており、訪問調査時には、帰宅願望のある利用者につき添って一緒に散歩するなど、利用者の気持ちを大切にされた対応の様子が窺えた。また、昨年は、畑作りをしたいという利用者の希望により、職員と一緒に畑を耕やすなどの取り組みも行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当の職員が、月1回の面談で家族と話し合い、希望を聞いている。利用者一人ひとりについて、全職員で検討し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うほか、入院や状態の変化があった場合などにも、家族と相談し、職員同士においても検討して介護計画の見直しを行っている。	○	入居者の状態を把握し、安全に暮らすための支援を確実にやりたいとの配慮から記録が増えたものと思われるが、そのために費やす時間が長く、負担になっているものと思われるので、職員のアイデアを集め、できるだけ重複を省く記録様式の検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望を取り入れ、年に1回ふるさと訪問を計画している。墓参りや自宅の仏壇参りなどを行っており、写真等の記録を残している。眼科や皮膚科などかかりつけの病院や、なじみの美容院の利用についても支援するなど、自主サービスで柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は母体の医療機関がかかりつけであることが多く、眼科や皮膚科等についても、本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医を受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、本人、家族の意思を確認している。意向を尊重しながら、状態の変化に応じて職員全体で話し合い、対応に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	広報に使う写真や個人情報などについて、家族に確認する等、利用者の個人情報の保護やプライバシーを損なわないための配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、ドライブの希望があるときは、職員が付き添っているが、一人ひとりのペースに十分対応できていない面がある。また、入浴は一人ずつできるように支援しているが、通院日等の午前中に済ませるようにしているため、希望に副えない場合がある。	○	職員の勤務のローテーションなどの工夫をしながら、利用者一人ひとりの状態や思いに配慮し、柔軟に対応されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にメニューの希望を聞き、食事の準備、盛り付けなどは、利用者と職員が一緒に行っている。また、利用者が楽しく食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者が一人ずつできるように支援しているが、リハビリの時間等の関係で、午前中に行われている。	○	就寝前の足浴や月数回でも夕方に入浴できるように勤務体制等を工夫し、利用者の希望に副って、楽しみながら入浴ができるよう検討することを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花、食材の下ごしらえや料理の盛り付けなど、利用者それぞれの得意分野で力を発揮できるよう支援している。また、好きな歌を歌ってもらったり、利用者の希望で干し柿作りを計画したりして、楽しみごとや気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者に「外気浴をしてもらう」ことを職員の目標に掲げており、洋式トイレのある公園を利用したり、ポータブルトイレを持参したりと配慮しながら、天気の良い日は利用者が同じ空間に長く居ないように外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や居室に鍵をかけていない。玄関の戸にはチャイムをつけているが、それに頼ることは少なく、職員が見守りに努め、利用者が外出しそうな様子の時は付き添って行くなどして、安全面にも配慮し自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、地域の消防署の指導を受けながら職員と利用者ともに消防訓練に参加し、マニュアルも作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取についてチェックを行っている。食事のメニューについては、法人の栄養士が作成したものを利用したり、助言を受けたりして、栄養のバランスに考慮している。	○	水分摂取については、補給状況の観察や1日の摂取量の把握をしているので、さらに記録を残すことで、よりよい支援となることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体に風が通り、日当たりも心地よく、利用者にとって不快な音やにおいも感じられない。生け花を得意とする利用者が散歩の途中で採ってきた草花を飾ったり、職員が心がけて花を飾ったりしており、訪問調査当日もホールは季節感であふれていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にあるベッド、たんす、テーブルや椅子、寝具は備え付けのものであったが、本人や家族が毛布やタオルケットなどを持ち込んでおり、利用者の経済的な負担をできるだけ少なくするとともに、居心地よく過ごせるような配慮がなされている。		